

まちづくり協議会通信

広域的な活動による地域コミュニティの活性化を促進している「まちづくり協議会」の取り組みを紹介します。



松

風中央まちづくり協議会
防災防犯パトロール実施

8月31日から9月4日までの期間、自主防災防犯パトロールが行われました。
地域住民が安全で安心して暮らすために昨年度から実施され、この日は松風第6・松風第7・松風第8・松風第9・睦町内会から約20人が参加。また、栗山警察署から2人が応援に駆け付けました。
出発式で井戸勉会長は「犯罪を防止するためにご協力をお願いします」とあいさつ。
その後、各町内会に分かれ、揃いのベストを着用してパトロールを行いました。

朝

日・湯地中央地域まちづくり協議会
安全・安心な地域づくり



同協議会自主防災会による避難訓練が、9月4日に行われました。
今回の訓練は、自主防災会として初めて行われ、これまでの一時避難訓練に加え消火訓練とAED講習を実施。
早朝に、震度6強の大地震が発生したことを想定した訓練には、朝日・朝日4丁目・湯地中央町内会から約240人の参加者が集まり、古瀬一芳代表は「このような訓練を通して、一人ひとりの防災意識を高めていきましょう」と呼びかけました。

中

中央地域まちづくり協議会
命の大切さを語りつなぐ



9月8日に、カルチャープラザ「Eki」で防災講演会が行われました。
講師に、奥尻町で北海道南西沖地震の津波を体験した元消防士の三浦浩氏を招き「あの坂へいそげ」と題して講演。
三浦さんは、スライドと手作り紙芝居を使って「災害が起きたら『命を守る』『命をつなぐ』『手立てを3つ』を必ず行ってください。そして、子どもたちにも日ごろから災害に備えることを伝えて」と呼びかけ、約40人の参加者は熱心に耳を傾けていました。

中

央南まちづくり協議会
協力して災害対策を



9月11日、災害避難訓練と防災学習会が行われました。
防災学習会では、フリーキャスターで気象予報士の菅井貴子氏による講演を開催。
「多発する異常気象と北海道の将来」と題した講演では、スライドを使って「完全な防災は無理でも、減災は可能です。命を守る『情報』『知識』『備え』の3原則を意識して地域で協力し合いながら災害対策しましょう」と呼びかけ、約70人の参加者は熱心に聞き入っていました。

コラム お金のおはなし

住宅ローンについて

文・星 洋子 さん

くりやまライフサポーター
応援ファイナンシャル・プランナー (FP)

マイホーム、 今が買い時？

今年2月からの日本銀行のマイナス金利政策の影響で、住宅ローンの固定金利が下がりに続いています。
変動金利が一番低いという常識が変わり、変動金利を下回る固定金利商品も出てきており、実際、変動金利よりも固定金利を選択する人が増えているそうです。
過去にも「史上最低の金利」と言われた時期が何度かありましたが、現在も確かに史上最低の状況であり、マイホーム購入の背中を押していることは間違いありません。
そして住宅ローンを組むときに一番悩むのがこの金利タイプ。長い期間の住宅ローンは、0・1%の差でも総返済額に影響します。変動金利は将来の金利上昇時を想定しましょう。
また、住宅ローンを組むときに目安にするのが、現在の家賃。住宅関連のチラシにもよく「家賃並みの返済」など

と書かれています。
でも気を付けてください。家賃と同額の返済額ではいずれば返済がきつくなりそうです。マイホームを持つことで「諸費用」が発生するからです。固定資産税や火災保険、修繕などの維持費。また賃貸よりも居住面積が広くなる分、光熱費もかさみがち。子どもがいる場合は、成長とともに家計全体の支出も増えていきます。
「最後まで払い続けることができる返済額」。これが住宅ローンの極意です。



ほし ようこ
1級FP技能士、2級DCプランナー。一般企業で10年以上経理・総務業務に従事しながら、自身の家計の見直しのためにFPの資格を取得。ライフプランを提案する独立型FPとしてセミナー講師、相談業務などを中心に活躍中。

栗山町若者移住促進 助成制度

栗山町に **移住する** 若者・子育て世代に
耳よりな情報！

この助成制度は、これからのまちづくりを担う若者・子育て世代を増やし、活力あるまちづくりの推進を目的として、**栗山町に転入する40歳未満の方、もしくは中学生以下の子と同居される方**に対する住宅支援制度です。
※その他、民間賃貸住宅を借りて移住する場合の家賃助成制度もあります。

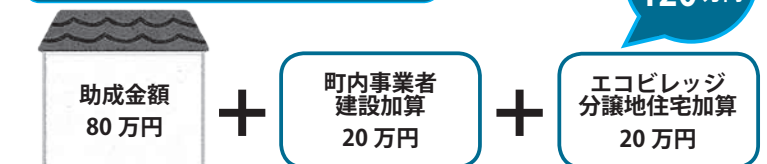
【問い合わせ】
町若者定住推進室 ☎ 73-7521

詳しくは、[栗山町若者移住促進助成](#) [検索](#)

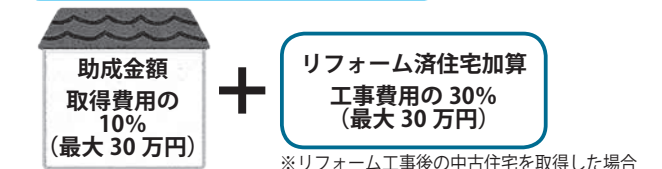
をクリック！

■一戸建て住宅を取得した場合の助成

①新築住宅取得費用助成制度



②中古住宅取得費用助成制度



③中古住宅リフォーム助成制度





北海道社会貢献賞を受賞 丸山紘司さんと藤澤千恵子さん

長きにわたり民生委員・児童委員として活動されている丸山紘司さん(中央4丁目)と藤澤千恵子さん(松風3丁目)が北海道社会貢献賞を受賞し、9月7日に椿原紀昭町長へ報告に訪れました。丸山さんは平成6年から、藤澤さんは平成7年から民生委員・児童委員となり、多年にわたり努められました。丸山さんは「これまで活動できたのは多くの皆さんにご指導いただいたおかげです」と話し、藤澤さんは「地域の皆さんのご理解とご協力に感謝します」と語ってくれました。



家族一体となって協力を 子育て講演会

栗山町子育て講演会が9月12日、総合福祉センター「しゃるる」で開かれました。講師に北海道教育大学附属札幌小学校の栄養教諭 須合幸司さんを招き「子どもの成長を加速させる方法」と題して講演。須合さんは「運動神経が身に付くタイムリミットは、平均で小学3,4年生くらい。子どもにはいろいろな動作を経験させましょう。また、家族一体となって協力をしていくことも大切です」と呼びかけ。集まった約70人は熱心に耳を傾けていました。

くりやまの大地を力走 第47回マラソン大会

第47回くりやまマラソン大会が9月4日に開かれ、静岡県や沖縄県をはじめ町内外から362人が参加し初秋の栗山を駆け抜けました。参加者は、栗山小学校前をスタートし、田園風景が広がる町内の3km、6km、10kmの各コースを力走。心地よい風と沿道からの声援を受けながらゴールのスポーツセンターを目指しました。表彰式では、男女、年代別に1位から3位までに賞状とメダルが授与され、表彰式の後には栗山町の特産品が当たる抽選会も行われました。



お米の大切さを感じて 稲刈り体験ツアーinくりやま

「稲刈り体験ツアー」が9月10日、継立の國岡晃平さんの水田で行われました。農業の理解と、食や米に対する関心を高めることを目的としてそらち南農協青年部(前田一樹部長)が主催し、今回で29回目。開会式で前田部長が「稲刈り体験を通してお米の大切さを感じてください」とあいさつし、その後、青年部員から指導を受け、参加した約50人は稲刈りを行いました。初めて参加した札幌市の武藤 重さん(8歳)は「とても楽しかったです」と話していました。



町民を意識した政策を 町議会基本条例制定10周年記念事業

栗山町議会基本条例制定10周年記念事業が8月26日、カルチャープラザ「Eki」で行われました。道内外から200人を超える参加があり、第1部では前栗山町議会議長の橋場利勝さんを講師に迎え「私の望む議会」をテーマに記念講演。講演で橋場さんは「町民を意識した政策を実現してほしい」と呼びかけました。第2部では、6人のパネラーがパネルディスカッションを行い、参加者は資料を見ながら各パネラーの発言を聞いて、熱心にメモを取っていました。



子どもたちに寄りそって 田中康雄氏講演会

発達障がい研究・治療のエキスパートである田中康雄さんの講演会が9月4日、総合福祉センター「しゃるる」で開かれました。今回は、「生きづらさを抱えた子どもたちに寄りそって～理解と支援～」と題して講演。田中さんは「みんなで必要に応じた支援をしていくことが大切です」と呼びかけ、集まった約150人は熱心に耳を傾けていました。参加した西田桂さんは「今日の話はたくさんの人に聞いて欲しいと思いました」と話してくれました。

満面の笑顔を書いて渡して 笑い文字教室

笑顔のイラストと文字を組み合わせた「笑い文字教室」が8月25日、カルチャープラザ「Eki」で行われました。植田美之さんを講師に招き、町民18人が参加。参加者は丸をイメージして笑顔を描きこむなどのポイントを約1時間かけ学習。最後に笑顔いっぱいの「ありがとう」をはがきに書きあげました。参加した中村由江さん(70歳:松風4丁目)は「丸と笑顔をうまく書くことができてうれしかったです」と笑顔で話していました。



種イモ収穫に強い味方 くりやま農業応援隊

北海道大学の学生が、8月29日から町内の農家で「くりやま農業応援隊」として農作業をサポートしました。応援隊は平成21年より実施。農業繁忙期の人手不足解消に一役買っています。受入農家の指導のもと、学生たちは大型機械で掘り出した種イモの選別や袋入れ作業などを行いました。9月1日、用川一雄さん(桜山)のほ場で収穫を行った山中元貴さん(工学部3年:22歳)は「太陽の下での農作業はとても気持ちがいいです」と話していました。

